2016年度 日本語（問題）

<H28102181>

注意事項

一　試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。

二　問題は2〜7ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。

三　解答はすべて解答用紙の所定欄に、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。

四　受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確にていねいに記入すること（左の記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に記入すること。

五　受験番号の記入にあたっては、左の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確にていねいに記入すること。読みづらい数字は、採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

（記入例）

58001番

⇩

万	千	百	十	一
5	8	0	0	1

（数字見本）

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

六　解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

七　試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。

八　いかなる場合でも解答用紙は必ず提出すること。

九　試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本でも、「コミュニケーション教育」という言葉が叫ばれて①ヒサしい。

昨今はもう、いささかヒステリックなほどに、どこに行ってもコミュニケーションの必要性が喧伝（けんでん）される。

たとえば、企業の人事担当者が新卒採用にあたってもっとも重視した能力について、二五項目のうちから五項目を選んで回答するという日本経団連（日本経済団体連合会）の経年調査では、「コミュニケーション能力」が九年連続でトップとなっている。二〇一二年では、過去最高の八二・六パーセント。ここ数年は二位以下に、二〇ポイントもの差をつけている。

ちなみに「語学力」は、ここ数年、六パーセント前後である。

それほどに企業がコミュニケーション能力を望んでいるのだとすれば、就職率を最優先する大学ならば、カリキュラムについて抜本的な改革を行わなければならなくなるだろう。A計算上は、週に一時間英語を教えるとすれば、週に一〇時間以上は「コミュニケーション」について教えなければならないことになる。

と、これは極端な②物言いだが、それほどに学校教育の内容と、企業の要求がずれてきているのだ。もちろん、大学が企業の要求にすべてあわせて人材を育成しなければならないと言っているわけではない。大学の③役割は、たしかに他にもあるだろう。しかし、社会の要請に応じて、教育のプログラムも変わっていくべきなのだが、それがまったくなされていないことは、やはり大きな問題だ。

少なくとも、たとえば、語学だけができても、望む企業には就職できないという現実がここにもある。実際には、語学のできる学生とコミュニケーション能力の高い学生というのは多少の［a］があるから、やはり語学のできる学生は就職に強いわけだが、もしも語学しかできない学生というのがいるとすれば、おそらくその学生は、本人は国際的な企業への就職を望んでも、語学学校の先生くらいしか就職口がないことになる。

ではしかし、企業がこうも強く要求している「コミュニケーション能力」とは、いったい何だろう？

就活（就職活動）まっただ中の学生たちに聞いてみても、かえってくる答えはB「まちまちだ。

「［b］意見が言えること」

「人の話が聞けること」

「空気を読むこと」注

結論から先に言ってしまえば、いま企業が求めるコミュニケーション能力は、完全にダブルバインド（二重拘束）の状態にある。

ダブルバインドとは、簡単に言えば二つの矛盾したコマンド（特に否定的なコマンド）が強制されている状態を言う。たとえば、「我が社は、社員の自主性を④オモんじる」と⑤常日頃言われ、あるいは、何か案件について相談に行くと「そんなことは自分で［c］できんのか！いちいち相談に来るな」と言われながら、いったん事故が起こると、「重要な案件は、なんでも上司に［d］しろ。なんで相談しなかったんだ」と⑥オコられる。このような⑦カタヨったコミュニケーションが続く状態を、心理学用語でダブルバインドと呼ぶ。

現在、⑧表向き、企業が新入社員に要求するコミュニケーション能力は、「グローバル・コミュニケーション・スキル」＝「異文化理解能力」である。ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）もまた、この能力を重視している。

「異文化理解能力」とは、おおよそ以下のようなイメージだろう。

異なる文化、異なる価値観を持った人に対しても、自分の主張を伝えることができる。文化的な背景の違う人の意見も、その背景（コンテキスト）を［e］し、時間をかけて説得・納得し、妥協点を見いだすことができる。そして、そのような能力をもって、グローバルな経済環境でも、存分に力を［f］できる。

まあ、なんと⑨素晴らしい能力であろうか。これを企業が求めることも当然だろうし、私もまた、大学の教員として、一人でも多く、そのような学生を育てて社会に送り出したいと願う。

しかし、実は、日本企業は人事採用にあたって、自分たちも気がつかないうちに、もう一つの能力を学生たちに求めている。あるいはまったくその別の能力は、採用にあたってというよりも、その後の社員教育、もしくは現場での職務の中で、無意識に若者たちに［ g ］されてくる。

日本企業の中で求められているもう一つの能力とは、「上司の意図を察して機敏に行動する」「会議の空気を読んで反対意見を言わない」といった日本社会における従来型のコミュニケーション能力だ。

いま就職活動をしている学生たちは、あきらかに、このような矛盾した二つの能力を同時に要求されている。しかも、何より⑩シマツに悪いのは、これを要求している側が、その矛盾に気がついていない点だ。［ h ］の典型例である。

注「空気を読む」…人々の気持ちを支配するような、その場の情況、雰囲気を察することをいう。

平田オリザ『わかりあえないことから――コミュニケーション能力とは何か』による。

問一　傍線部①④⑥⑦⑩の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

問二　傍線部②③⑤⑧⑨の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問三　傍線部A「計算上」とあるが、どのような計算をしたのか。左の数式の空欄に入る最も適切な数字を解答欄に答えなさい。

82.6 ／［　］× 10

問四　空欄［ a ］に入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　危険性　　イ　具体性　　ウ　公共性　　エ　相関性　　オ　論理性

問五　傍線部B「まちまちだ」とあるが、それはどのような意味か。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　それぞれが違っていること
イ　それぞれが同じであること
ウ　すべてが違っているわけではないこと
エ　すべてが同じであるわけではないこと

問六　空欄［ b ］に入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　かちんと　　イ　きちんと　　ウ　ちらっと　　エ　のそっと　　オ　ひらりと　　カ　ゆらりと

問七　空欄［ c ］～［ g ］に入る語として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。ただし、同じものを二度用いてはならない。

ア 発揮　イ 判断　ウ 報告　エ 要求　オ 理解

問八　空欄 h に入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア ヒステリック　イ コミュニケーション　ウ カリキュラム　エ ダブルバインド
オ コンテキスト

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の食文化は今、大きな①ヘンカクキにきている。料理をする家庭が減り、食生活の大部分を外部の食産業（外食、中食[注1]、通信販売、ファーストフードなど）に頼る家族が急激に増加している。若者の間ではバラバラ食いとか勝手食いとかいった新しい風俗[注2]が広がっている。

家庭で作る料理も各国の料理がいりみだれ、味つけや素材など従来にない組み合わせが登場し、食材なども海外に依存するものが多くなった。

その一方で、海外では日本料理ブームが続き、ことにスシの愛好者は世界中に広がっているし、日本料理を出すレストランも世界中の大都市には必ずといってよいほど出店している。[a]ニューヨークなどでは、七～八〇〇軒の日本料理屋がマンハッタンに集中しているそうである。

こうした変化からうかがえることは、日本の食文化の中で、食材、調理法、作り手、食べ手、食事の場所、食事をする人びとの人間関係などがあらゆる面で変りつつある点である。しかしここで変化という内容について考えてみる必要があろう。変化という以上、変化する前の状態が明確であればこそ、何がどのように変化したといえるはずだ。では変化の基準となる日本の食文化とはどのようなものか。この質問に対して誰も[X]「日本の食文化とは何か」について答えられないことに気付くのではないか。誰もが当然のように使っている日本の食文化の内容ほどあいまいなものはない。そもそも「食文化」という言葉が、とても新しい言葉なのである。

食文化が一つの研究領域として認知されるまで、その開拓と深化を進めてこられた石毛直道氏（国立民族学博物館名誉教授）が食事文化、あるいは食文化という概念を提示されたのは一九七〇年代後半のことであった。それまで、栄養学、調理学、生理学の領域で扱ってきた食が、一挙に食料の生産、獲得より、分配・流通、調理、栄養、食卓などの食事に使う家具や道具、調理場、食べ方、食べる場、設営や片付け、②廃棄、排泄に至るまでを含むものとしてとらえなおされ、自然科学、さらに歴史、民俗、思想、宗教、法律、経済、社会、文学、美術工芸等々の人間の食をめぐる一切を含む概念として食文化という言葉が生まれたのである。こうした人類学的視点のもとに、日本国内ばかりでなく、世界中の諸民族、諸地域の食文化の研究が進められ、今日では食文化が一つの研究領域として確立しつつあるといってよい。[b]その中で日本の食文化という時、他の民族、地域と比較していかなる特質があるのか、が考えられなければならない。（A）

人類は他の動物と異なる性格をもっている。それは文化を持っている、という点である。人間以外の（類人猿は少し別だが）動物が持たない文化とは何か。（B）

アフリカのサバンナに生息しているライオンを寒冷地へ連れて行ったら生きてはいけない。同様にペンギンを熱帯に移したらたちまち死んでしまうだろう。つまり動物は自然環境が条件となって、生息できる地域が限定されている。ところが人間だけは砂漠であれ熱帯雨林であれ、ツンドラ地帯であれ、かなり③過酷な自然条件の中でも生活している。それができるのは、環境に適応するためにさまざまの技術や思考を創造してきたからである。その総体を文化と呼んでいる。つまり、人間が環境の中で生み出してきた一切の工夫と創造物、ものの見方―世界観といいかえられる―の総てを文化と考えてよい。したがって文化とは、それが生まれた自然環境と対応している。食文化も文化の一つである以上、当然その地域の自然環境に最も④ガッチしたものであるはずである。日本の食文化は、日本の環境を最もよく映しだす鏡でなければならない。[c]、日本の食文化を支える食材は、今やその多くが海外から輸入される。天ぷらウドンを食べたら、その食材の中で純国産品は水だけだった、という笑えぬ話が語られてから二〇年ほども経過した。日本の食糧自給率は下がる一方である。（C）

環境には自然の環境だけでなく歴史的に形成された文化的環境もある。日本は大陸から大きな影響を受けつつ日本独自の文化を形成してきた。[d]日本の食文化の背景には中国や朝鮮半島の文化がある。ことに琉球は中国南方の文化の強い影響を受けて独自の食文化を形成しており、これを日本の食文化に包含すべきか議論があるところだ。同様に民族として⑤別個の歴史を持つアイヌの食文化も、日本の食文化の範疇を越えている。現代の日本という視点よりすれば、もちろん沖縄も北海道も日本の食文化として広く把えるべきであるが、ここに歴史的環境のズレがある。（D）

日本の食文化が独自の展開をとげた一九世紀の明治維新（一八六八年）までは、北海道の最南部から鹿児島まで、地域

ごとにほぼ完結した食文化を営みながら、ほぼ共通した性格をもっていた。国内で遠隔地から運ばれる昆布や塩蔵品などは別として、地産地消というのもおこがましいような自給体制の中で食文化を⑥ハグクんできた。ただその段階では交渉の少なかった琉球やアイヌの食文化はほとんど受け入れられていない。[e]長崎を窓口としてオランダや中国の清朝の食文化が一部の人びとに受け入れられている。こうして一九世紀前半には、今日いうところの日本料理の基本的な性格や料理、⑦献立が完成されていた、と見てよいだろう。そこで、幕末までに完成されていた（アイヌと琉球を除いた）食文化を、「狭義」の日本食文化と考えておこう。

明治維新後、文明開化を通して日本人は積極的に欧米の文化を学び、取り入れた。食文化も例外ではない。かつて奈良時代に遣唐使を派遣して唐の文化を日本に移植したように、留学生やお雇い外国人などを通して急激に欧米の文化が流入した。その中に食文化もあった。はじめは西洋料理として紹介された欧米の食もまもなく日本の食と融合し、いわゆる和洋⑧セッチュウ料理が工夫された。その実態はさまざまで、大部分が日本人の⑨シコウに合わず消えていったが、中には正に新料理として日本の食の典型となったスキヤキやライスカレー、オムライス、トンカツなどが誕生している。このような文明開化以降に新しく工夫され、日本人の生活の中に定着した料理、さらに素材、調理法、道具等々を含めた食文化は「広義」の日本食文化と呼びたい。その背景には琉球や北海道も含まれた日本があった。

在来野菜の定義として三代にわたって作りつづけられた野菜といういい方があるが、食文化としても、三世代を遡って常食されてきたものを広い意味で日本の食文化に含めることに⑩大方の異論はないと思う。ほぼ昭和三〇年（一九五五年）ごろまでに日本人が常食化していた食べものは「広義」の日本の食文化である。

注1　「中食」…レストランなどで食べる「外食」でもなく、家で手作りのごはんを食べるのでもなく、コンビニ弁当などの調理済み食品を買って自宅で食べること。

注2　「バラバラ食いとか勝手食いとかいった新しい風俗」…一人一人がばらばらに自分が好きなものを食べたり勝手な時に食べたりすること。

熊倉功夫『日本の伝統的食文化としての和食』による。

問九　傍線部②③⑤⑦⑩の漢字の読みを平仮名で解答欄に書きなさい。

問十　傍線部①④⑥⑧⑨の傍線部の片仮名を漢字に直して解答欄に書きなさい。

問十一　空欄 [a]〜[e] に入る言葉として、もっとも適切なものを、それぞれ次のア〜オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。（同じものを二回以上使わないこと。）

ア　ところが　　イ　では　　ウ　むしろ　　エ　たとえば　　オ　したがって

問十二　空欄 [X] に入るもっとも適切な語を次のア〜オの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　本来の
イ　現代の
ウ　新規の
エ　虚偽の
オ　現実の

問十三　一般に、「文化」という語は、いろいろな意味で使われている。この文章で使われている「文化」にもっとも近い用法を次のア〜エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　課外活動には文化部と体育部があり、行事には文化祭と体育祭がある。
イ　すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

ウ　同じ日本でも関東と関西では文化が違うと言われる。

エ　平安時代にはすぐれた書道の文化が生み出された。

問十四　「つまり、日本の食文化が日本の自然環境から遠いものになりつつある。」という文が入る場所として最も適切なものを、本文の（A）～（D）の中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

問十五　本文で述べられている「食文化」について、適切でないものを次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　「食文化」には経済、社会、文学、美術工芸も関わる。

イ　「食文化」という言葉は、新しい言葉である。

ウ　「食文化」はいまだに一つの研究領域として認知されていない。

エ　「食文化」では世界の諸民族、諸地域との比較も必要である。

問十六　この文章で述べられていることと一致するものを次のア～エの中から一つ選び、解答欄に記号で答えなさい。

ア　料理、調理法、食事の作法などは「食文化」として考えられるが、例えば排泄などは「食べる」という行動とは別なので食文化の中には入れられない。

イ　はるか過去から現在まで、地域ごとにほぼ完結した食文化が伝えられてきている。「日本の食文化」には一貫した流れがありそこに大きな段差はない。

ウ　最近、食材、調理法、作り手、食べ手、食事の場所、食事をする人びとの人間関係などが変りつつあり、もはや「日本の食文化」は存在しない。

エ　日本では、戦後になってからも、日本独自の食べ物が次々と生まれている。しかし、それらがみな「日本の食文化」の中に含められるとは限らない。

問十七　あなたが「日本の食文化」と考えるのは、この文章の「狭義の日本の食文化」か、「広義の日本の食文化」か、そのいずれでもないかを答えなさい。なぜそう思うかも含めて二〇〇字程度で書きなさい。書き出しは、「私が考える日本の食文化とは」とすること。

〔以下余白〕

受験番号	万	千	百	十	一
カナ氏名					
氏名					

（所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない）

2016年度

日本語

（解答用紙）

No. 1 ／ 2

採点欄

一

問一 ① しい

問二 ② い　⑦ った　⑧ き　⑨ らしい　⑩　③　⑤

問三

問四 a

問五

問六 b

問七 c　d　e　f　g

問八 h

二

問九 ② ③ ⑤

問十 ① ④ ⑥ んで ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問十一 a b c d e

（この線で二つ折りにして書きなさい）

問十二

問十三

問十四

問十五

問十六

問十七

2016年度

日本語

（解答用紙）

No. 2 ／ 2

採点欄

（裏面使用不可）